

講義コード	1114310002
講義名称	東洋史 02<秋集>
科目英文名	Oriental History
代表ナンバリングコード	HIST1440
単位数	4.0
時間割	秋学期: 月曜日 1 時限, 秋学期: 木曜日 2 時限
講義開講時期	秋学期

担当教員

氏名
辻 高広

授業形態	講義
------	----

講義・演習概要	東アジアの国々は、時代によってその密度に濃淡はあるものの、中国を中心とした一定の関わりをもって、ひとつの「東アジア世界」を形成してきた。本講義では、中国歴代王朝の変遷を縦軸にしながら、周辺地域との文化的・経済的・政治的交流を中心に東アジア世界の歴史的展開を概括する。 なお、本講義では中国の歴史について、高校世界史レベルの知識を有することを前提とする。授業の最初に適宜小テストを行なうので知識に自信のない者は事前に高校の教科書などを読んで学んでおくこと。 また、この授業ではM-Portや各種情報検索ツールを積極的に使用し、レジュメなどはM-Portを通じてpdfで配布する予定であり、受講時にはPCやタブレット端末などの持参を推奨する。
学習（到達）目標	東アジア世界を形成してきた有機的なつながりについて学びながら、歴史が断絶のなかに形成されてきたのではなく、連続性をもって現代につながっていることを理解する。

講義・演習計画

回	内容
第1回	ガイダンス
第2回	先秦時代1―「中華」世界の萌芽
第3回	先秦時代2―今に残る「古代中国」
第4回	秦漢時代1―統一帝国の形成と内実
第5回	秦漢時代2―徐福と渡来伝説
第6回	三国時代1―後漢の滅亡と三国鼎立
第7回	三国時代2―邪馬台国と東アジア国際情勢
第8回	南北朝時代1―晋による統一と異民族国家の乱立
第9回	南北朝時代2―南北朝の対立と古代日朝関係
第10回	隋唐時代1―隋唐世界帝国
第11回	隋唐時代2―世界帝国唐の繁栄と衰退
第12回	隋唐時代3―遣唐使の時代
第13回	五代十国―唐末の混乱と軍閥割拠
第14回	宋代1―文人国家宋
第15回	宋代2―ゆらぐ「中華」
第16回	宋代3―商業の発達と海を渡る貨幣
第17回	元代1―遊牧民族国家としてのモンゴル
第18回	元代2―国際商業国家としてのモンゴル

第19回	明代1―征服王朝の崩壊と漢民族王朝の復活
第20回	明代2―永楽帝の対外政策と朝貢貿易体制の成立
第21回	明代3―北虜南倭と銀の時代
第22回	清代1―「中華」王朝の完成
第23回	清代2―清とモンゴル・チベット・ウイグル
第24回	清代3―清とヨーロッパ
第25回	中華民国時代1―革命から近代国家へ
第26回	中華民国時代2―軍閥割拠
第27回	中華民国時代3―抵抗の時代
第28回	中華人民共和国時代1―共産主義革命と東西対立
第29回	中華人民共和国時代2―新たな東アジア世界の模索
第30回	総括とまとめ

成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	40%
レポート	40%
その他	20%

成績評価の方法（コメント）	学期中に各テーマの内容理解度を確認する複数回の小テストを、学期末には授業内容全体の理解度を確認する試験を課す。また、学期中に複数回のミニレポートを課す。
---------------	--

参考文献	尾形勇・岸本美緒編『新版世界各国史3 中国史』山川出版社、1998年 講談社『中国の歴史』シリーズ（全12巻）、2004年～2005年 木村靖二ほか著『詳説世界史』山川出版社、2017年改訂
事前および事後学習の指示（事前学習 30 時間 ・事後学習 30 時間）	授業前には指示する時代について、高校教科書および参考文献に目を通し、その時代背景について基礎的な知識を身につけておくこと。授業後には講義内容について確認し、理解不足の点があれば質問すること。

【社会人の方へ】
レジュメは全てM-Portを通じてpdf形式で配布します。受講時には印刷するか、PC・タブレット端末などpdfファイルを閲覧できる環境をご準備下さい。

講義コード	14D0310002
講義名称	経済原論 02<秋集>
科目英文名	Principles of Political Economy
代表ナンバリングコード	ECON2330
単位数	4.0
時間割	秋学期: 月曜日 2 時限, 秋学期: 木曜日 2 時限
講義開講時期	秋学期

担当教員

氏名
金江 亮

授業形態	講義
------	----

講義・演習概要	従来のマルクス経済学に、新古典派経済学や最適成長理論といった、近代経済学の理論の観点も取り入れつつ学ぶ。ミクロ経済学・マクロ経済学とはまた違った視点で経済を学ぶ。 またテキスト以外にも、ドキュメンタリーや映画などの映像資料も数回用いる予定である。
学習（到達）目標	マルクス経済学の基礎を学ぶ。また、現実の経済問題について、社会科学的な視点で考えられるようになることが目標である。

講義・演習計画

回	内 容
第1回	第1章 マルクスの人間論1 土台としての生産活動 マルクス経済学と近代経済学の共通点と違い
第2回	第1章 マルクスの人間論1 土台としての生産活動 唯物論で社会科学を観る
第3回	第1章 マルクスの人間論2 上部構造の唯物論的理解 唯物論と新古典派の親近性
第4回	第1章 マルクスの人間論2 上部構造の唯物論的理解 資本主義の成立：マルクスとウェーバー
第5回	第1章 マルクスの人間論3 土台が上部構造を規定するとはどういうことか イデオロギーは経済から来る
第6回	第1章 マルクスの人間論3 土台が上部構造を規定するとはどういうことか 様々な社会問題の背景には経済問題がある。
第7回	第2章 商品生産社会としての資本主義1 商品生産が一般化する条件としての生産力 商品とは何か。
第8回	第2章 商品生産社会としての資本主義1 商品生産が一般化する条件としての生産力 価値と価格の違い。
第9回	第2章 商品生産社会としての資本主義2 生産物と商品 価値形態論と交換過程論。
第10回	第2章 商品生産社会としての資本主義2 生産物と商品 貨幣発生の数理的論証。
第11回	第2章 商品生産社会としての資本主義3 自己増殖する貨幣としての資本 資本の第一定義。
第12回	第2章 商品生産社会としての資本主義3 自己増殖する貨幣としての資本 お金はただあるだけでは資本ではない。
第13回	第3章 工業社会としての資本主義1 『労働指揮権』としての資本 資本の第二定義。
第14回	第3章 工業社会としての資本主義1 『労働指揮権』としての資本 資本の下への労働の包摂。

第15回	第3章 工業社会としての資本主義2 剰余価値の量的変動 剰余価値率と利潤率の違い。
第16回	第3章 工業社会としての資本主義2 剰余価値の量的変動 減価償却費と不変資本。
第17回	第3章 工業社会としての資本主義3 非工業部門における『産業革命』と資本主義化 大規模化は、非工業部門でも起きる。
第18回	第3章 工業社会としての資本主義3 非工業部門における『産業革命』と資本主義化 学校や病院でも大規模化が起こる。
第19回	第4章 資本主義の発展と死滅1 資本主義の生成・発展・死滅を説明するモデル 経済成長論。
第20回	第4章 資本主義の発展と死滅1 資本主義の生成・発展・死滅を説明するモデル 成長率は0に収束する。
第21回	第4章 資本主義の発展と死滅2 蓄積捨象の場合の再生産条件(単純再生産) 最も単純な場合だが、現在の先進国経済を観る上でも重要である。
第22回	第4章 資本主義の発展と死滅2 蓄積捨象の場合の再生産条件(単純再生産) 単純再生産でも、搾取が存在する。
第23回	第4章 資本主義の発展と死滅3 剰余価値の資本への転化(拡大再生産) 成長率と部門間比率。
第24回	第4章 資本主義の発展と死滅3 剰余価値の資本への転化(拡大再生産) 成長率はどう決まるか。
第25回	第4章 資本主義の発展と死滅4 資本主義的蓄積の一般的傾向 利潤率の傾向的低下の法則
第26回	第4章 資本主義の発展と死滅4 資本主義的蓄積の一般的傾向 先進国は軒並み低成長に陥っている
第27回	第4章 資本主義の発展と死滅5 原始的蓄積と国家資本主義 資本主義の成立にはどの国も多くの残酷なことがあった
第28回	第4章 資本主義の発展と死滅5 原始的蓄積と国家資本主義 ソ連・中国は特殊な資本主義だった
第29回	第5章 資本主義的生産に先行する諸形態
第30回	まとめ

成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	90%
レポート	10%
その他	

成績評価の方法（コメント）	授業への積極的な参加を歓迎する。成績評価は毎回の確認テスト(2〜4問程度)と、2〜4回ほど映像資料のレポートを課す予定である。
---------------	---

テキスト

	著者	タイトル	教科書購入区分	ISBN	出版社	備考
1.	大西広	マルクス経済学【第3版】	大学オンライン販売	9784766426755	慶應義塾大学出版会	

参考文献	松尾匡『マルクス経済学（図解雑学シリーズ）』（ナツメ社） 大谷禎之助『図解 社会経済学』（桜井書店） 北村洋基『現代社会経済学』（桜井書店）
事前および事後学習の指示（事前学習 30 時間 ・事後学習 30 時間）	テキストは少し難しいが、難しい数式が理解できなくても気にしなくてよい。授業では、簡単な数値例で説明する。
備考(管理者用)	（旧：経済原論ⅠB）02〜07E・CBCC生読替

講義コード	1530010000
講義名称	社会学原論　＜秋集＞
科目英文名	Principles of Sociology
代表ナンバリングコード	0SOC1320
単位数	4.0
時間割	秋学期: 月曜日 2 時限, 秋学期: 木曜日 4 時限
講義開講時期	秋学期

担当教員

氏名
名部　圭一

授業形態	講義
------	----

講義・演習概要	19世紀末から20世紀までの社会学理論の展開を、ほぼ時系列に沿いながら見ていく。 その際。①それぞれの理論家はどのような点に「社会的なもの（the social）」も見出したのか、②そのアイデアは近代社会（modern society）の分析においてどう生かされているのか、という2つの観点から解説を行う。
学習（到達）目標	社会学理論の歴史を体系的に理解するとともに、学んだ理論を用いて社会問題・社会現象を説明できるようになること。

講義・演習計画

回	内容
第1回	イントロダクション：二つの社会イメージ
第2回	カール・マルクス：資本制と唯物史観
第3回	エミール・デュルケム（1）：物としての社会
第4回	エミール・デュルケム（2）：機械的連帯から有機的連帯へ
第5回	マックス・ウェーバー（1）：意味としての社会
第6回	マックス・ウェーバー（2）：官僚制と合法的支配
第7回	ゲオルク・ジンメル：相互作用としての社会
第8回	タルコット・パーソンズ：秩序問題とダブル・コンティンジェンシー
第9回	ロバート・キング・マートナー：行為の意図せざる結果と潜在的機能
第10回	アーヴィング・ゴフマン（1）：ドラマとしての社会
第11回	アーヴィング・ゴフマン（2）：人格崇拜と相互行為儀礼
第12回	現象学的社会学とエスノメソドロジー：「当たり前」を研究する社会学
第13回	フェルディナン・ド・ソシュールとジャン・ボードリヤール：記号論と消費社会
第14回	ミシェル・フーコー（1）：権力論の革新（リノベーション）
第15回	ミシェル・フーコー（2）：監視社会論
第16回	ピエール・ブルデュー（1）：文化資本論
第17回	ピエール・ブルデュー（2）：界と卓越化
第18回	アンソニー・ギデンズ（1）：構造化理論
第19回	アンソニー・ギデンズ（2）：モダニティ論
第20回	ユルゲン・ハーバーマス：公共圏とコミュニケーション的理性
第21回	ニクラス・ルーマン（1）：社会システムと反人間主義の社会学
第22回	ニクラス・ルーマン（2）：機能分化と近代社会
第23回	ジョック・ヤング：包摂型社会と排除型社会

第24回	ジグムント・バウマン：ソリッド・モダニティからリキッド・モダニティへ
第25回	ウルリッヒ・ベック：リスク社会論
第26回	見田宗介：まなざしの地獄と交響圏
第27回	ジュディス・パトラー：ジェンダー・トラブル
第28回	上野千鶴子：資本制と家父長制
第29回	レポート概要
第30回	まとめ

成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	
レポート	70%
その他	30%

成績評価の方法（コメント）	期末レポート：70％　課題レポート：30％　※レポートはいずれもM-Portで提出 ・課題レポートにはテーマに即した自身の考えを書いてもらう。なお、課題レポートの点数は出席点ではない。提出されたレポートが無内容もしくは不適切と判断した場合、得点を与えないので、しっかりと考え内容のあるレポートを出すこと（無内容なものを提出するぐらいなら、出さない方がまし）。 ・期末レポートは大きめのテーマを与え、1500～2000字で書いてもらう。成績評価は厳しめ。いわゆる「楽単」や「カモ」ではないので、覚悟して履修するように。
---------------	---

参考文献	友枝敏雄・浜日出夫・山田真茂留（編著）『社会学の力』有斐閣 奥村隆『社会学の歴史Ⅰ』有斐閣 奥村隆『社会学の歴史Ⅱ』有斐閣 竹内洋『社会学の名著３０』筑摩書房（ちくま新書） 大村英昭・宮原浩二郎・名部圭一（編）『社会文化理論ガイドブック』ナカニシヤ出版 作田啓一・井上俊（編）『命題コレクション社会学』筑摩書房（ちくま学芸文庫）
事前および事後学習の指示（事前学習 30 時間 ・事後学習 30 時間）	・社会学の魅力のひとつは「自分の頭で考えることができる」という点にあります。この授業では、できるだけ多くの身近な例を出しながら解説をおこなうので、「自分もいっしょになって考える」という姿勢で参加してください。 ・一方通行にはならないインタラクティブな授業を目指します。学生からの積極的な発言・レスポンスを期待しています。
キーワード	社会学理論／方法論的集合主義／方法論的個人主義／機能主義／意味学派／構造主義／伝統社会／近代社会／ポストモダン／後期近代／フェミニズム

講義コード	1781030000
講義名称	日本語文法論　＜秋集＞
科目英文名	Japanese Syntax
代表ナンバリングコード	LING2450
単位数	4.0
時間割	秋学期: 月曜日 4 時限, 秋学期: 木曜日 1 時限
講義開講時期	秋学期

担当教員

氏名
有川　康二

授業形態	講義	実技	アクティブラーニング
	実務経験のある教員による授業①		
	日本語教師としての実務経験あり		

講義・演習概要	消化の法則とメカニズムを理解するために胃腸という臓器（食物（情報）を分解、吸収する消化システム）を調べます。免疫の法則とメカニズムを理解するために血液やリンパ系細胞等の免疫システム（情報を守る器官）を調べます。この授業では、ヒト自然言語の情報処理の法則とメカニズムを理解するためにヒト脳という臓器（情報を処理するシステム）を調べます。といっても、脳を解剖したり（簡単にどこでもできません）、1台何億円もするfMRIを使って脳を調べるわけではありません。実際、解剖やfMRIでは言語システムで働く文法の詳しい法則や仕組みは全然分かりません。各々が自分の母語（韓国語、中国語、日本語など）を使って、つまり、各々が自分の脳の働きを徹底的に観察して、実験（思考実験）を行い、言語現象の論理的な説明をしていきます。母なる自然の創造したヒト脳（約1300gのタンパク質の塊）という情報処理システムで働く法則とメカニズムの説明を行います。紙と鉛筆があればできます。授業をちゃんと聞かない人、勉強する気がない人には全て無駄話に聞こえます（危険）。向学心豊かな真の大学生になる気のない人は受講しないでください（願）。
学習（到達）目標	人間の脳の言語システムは、母なる自然が創った複雑な情報処理システムです。言語システムの意味と構造の情報処理の法則とメカニズムを調べます。頭の中ではどんな言語情報の計算が行われているのか？母なる自然の創造したヒト脳の自然言語情報処理システムの法則とメカニズムを炙り出していきます。ヒト脳が生み出す幾何学的なグラフ構造を一緒に書いてみます。

講義・演習計画

回	内容
第1回	イントロ。 履修要項、シラバス、M-Portの関連箇所を読む。 ヒト脳の自然言語システムの法則とメカニズムを調べるには、どうしたらいいのか。ヒト脳の文に対する容認性反応（OKか、変か、どの程度、変か）を調べることは、私たち一人一人が自分の脳を使って行う実験。
第2回	第 1 回の続き
第3回	「統御」の定義、「学生が大学を破壊した」という文の構造のでき方のプロセス等
第4回	第 3 回の続き
第5回	「学生が大学を破壊した」という能動文に対応する直接受身文は「大学が学生によって破壊された」、間接受身文は、「国は学生に大学を破壊された」。直接受身の構造を調べる。また、今、ホモ・サピエンス脳内の言語システムが免疫システムを偽装している、という仮説の検証を行っているが、今回は、癌のような構造情報が存在するという話。癌細胞とは、自分は抗体のようなふりをして、私たちの体の免疫システムを攪乱する、抗体の働きを殺す情報（現代の医学では、この癌細胞を根絶することはできていない）。私達の脳内の言語システムは、癌細胞の働きも偽装している。私たちの脳の働きを観察すると、言語システムで、このような抗体（ウイルスバスター）の働きを消去する癌のような情報が存在する、という話。
第6回	第 5 回の続き
第7回	英語の受身文構造、他動詞を見分ける診断法
第8回	第 7 回の続き
第9回	ヒンディー語の直接受身の文構造、何故、ヒンディー語なのか？英語のresembleのような動詞が直接受身を形成できないのは何故か？
第10回	第 9 回の続き
第11回	間接受身の文構造、対応する英語の文構造（get-passive）

第12回	第 1 1 回の続き
第13回	主語の問題
第14回	第 1 3 回の続き
第15回	ヒンディー語とイタリア語の方言、フリウリ語の一致現象
第16回	第 1 5 回の続き
第17回	より効果的な主語の定義と、その具体例
第18回	第 1 7 回の続き
第19回	より明確なかたちで、定理と証明を明示する。直接受身文と可能文を利用して、ヒト脳の生み出す幾何学的構造の存在証明を行う。可能文の例では、「～が」が主語ではない、「～に」が主語となる、しかも、発音されない（あなたの耳には聞こえない）「～に」が主語である、という衝撃的な結論を導く証明を行う。
第20回	第 1 9 回の続き
第21回	間接受身と使役の幾何学的グラフ（文構造）が基本的に同じという証明
第22回	第 2 1 回の続き
第23回	別の主語の定義。その定理の提示と証明。
第24回	第 2 3 回の続き
第25回	変項束縛の問題を、疑問文を使用して考える。
第26回	第 2 5 回の続き
第27回	whetherを使用した、principle of minimal computation (MC; 最小計算の法則)に関する定理の更なる証明。数学のグラフ理論が自然言語研究にどのように貢献できるのかに関する具体例。
第28回	第 2 7 回の続き
第29回	グラフ理論（線形代数学の応用）は自然言語研究に貢献できるか？
第30回	第 2 9 回の続き

成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	
レポート	
その他	100%

成績評価の方法（コメント）	講義中に自筆でノートをとってください。毎回提出の自筆授業ノートの質、量、提出具合で評価。自筆でのノート取りは基本の基。基本の基で評価します。ここでは剽窃援助AIシステムChatGPTも無能です。
---------------	---

参考文献	寺村秀夫(1982)『日本語のシンタクスと意味I』くろしお出版 寺村秀夫(1984)『日本語のシンタクスと意味II』くろしお出版 宮本陽一(2009)『生成文法の展開－「移動現象」を通して』大阪大学出版会
------	--

事前および事後学習の指示（事前学習 30 時間 ・ 事後学習 30 時間）	内容を順次理解しなければ、珍糞漢糞になります。
その他備考（担当教員用）	毎回の講義の録画データをM-Portにアップします。自筆ノートの補正に利用してください。
キーワード	自然言語、自然法則、情報、構造

講義コード	1540610000
講義名称	現代社会論　＜秋集＞
科目英文名	Modern Society
代表ナンバリングコード	OSOC1400
単位数	4.0
時間割	秋学期: 火曜日 2 時限, 秋学期: 金曜日 3 時限
講義開講時期	秋学期

担当教員

氏名
篠原　千佳

授業形態	講義
------	----

講義・演習概要	この講義では、社会学の基礎知識を学習し、さまざまな現代社会の問題について社会学的に考察する。信頼社会、観光と社会、ライフコース、地域社会の多様化、社会階層と格差、大衆文化、家族とジェンダー、福祉国家、幸福感と社会意識、グローバル社会と日本などを予定している。
学習（到達）目標	社会学の理論・研究方法など基礎知識を習得しながら、グローバル化社会の様々な現象や問題を、社会学的に理解・分析する基礎力を育成できる。この多様化する現代社会を、多角的な視点で理解・分析し、社会問題の解決方法を模索・提示できる能力を身につけることができる。

講義・演習計画

回	内容
第1回	講義紹介
第2回	社会学とは、コロナ禍以降のグローバル社会
第3回	現代社会を理解するための社会学理論と調査方法
第4回	信頼の社会学 1－身近な人間関係
第5回	信頼の社会学 2－多文化主義
第6回	観光社会学 1－食とツーリズム
第7回	観光社会学 2－ローカル・ナショナル・グローバル
第8回	図書館調査活動－現代社会リサーチプロジェクト
第9回	ライフコースの社会学 1－AI時代の教育、教育機会の国際比較
第10回	ライフコースの社会学 2－学校から職業への移行
第11回	地域社会の変化 1－地域社会、多様化、リスク
第12回	地域社会の変化 2－地域社会の社会学的分析
第13回	格差と社会階層 1－総中流社会から格差社会へ
第14回	格差と社会階層 2－労働生産性と働き方改革
第15回	学期前半のまとめと復習
第16回	大衆文化の社会学 1－メディア文化とクールジャパン
第17回	大衆文化の社会学 2－グローバル化と伝統文化
第18回	現代社会と宗教意識 1－聖アンデレ日と英国のキリスト教
第19回	家族とジェンダー 1－近現代社会のジェンダーと性別選好
第20回	家族とジェンダー 2－性別役割と格差そして社会制度
第21回	現代社会と宗教意識 2－世界の宗教とクリスマス

第22回	福祉国家 1－福祉レジームと社会保障制度
第23回	福祉国家 2－少子高齢化におけるジェンダーとケア
第24回	リスク社会－NPOとボランティアが豊かにする市民社会
第25回	社会意識と幸福 1－グローバル化と子どもの幸福
第26回	社会意識と幸福 2－世界の中の私たち
第27回	グローバル社会と共生 1－相互理解と国際機関の役割
第28回	グローバル社会と共生 2－多文化社会の文化的包摂と排除
第29回	グローバル社会と共生 3－集合的アイデンティティの変化
第30回	今学期のまとめと期末試験レポートの最終確認

成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	40%
レポート	30%
その他	30%

成績評価の方法（コメント）	基本的な理解と応用力を学期末試験レポート課題（４０％）で確認するほかに、中間レポート課題（３０％）、授業への積極的な参加・貢献を授業内小課題（３０％）により評価する。毎回講義時間内外の課題に取り組み、積極的に授業に参加・貢献することに加えて、計画的に課題に取り組むことが求められる。
---------------	--

テキスト

	著 者	タイトル	教科書購入区分	ISBN	出版社	備考
1．	山田真茂留（編）	グローバル現代社会論	大学オンライン販売	ISBN-13: 978-4830950056	文真堂	

参考文献	友枝 敏雄・山田真茂留・有田伸・筒井淳也（編），2023，『災禍の時代の社会学－コロナ・パンデミックと民主主義』東京大学出版会。
事前および事後学習の指示（事前学習 30 時間・事後学習 30 時間）	講義時の指示に従い、毎回必ず予習・復習し授業に臨むこと。事前学習としては、教科書の該当する章を熟読し、その章に関する基本的設問に答えられるよう準備をしておくこと。事後学習として、レポート等執筆の課題に取り組むこと。講義時間内外での提出課題は個人、ペア、グループ・ワークなど多様であり、自立心と積極性に加えて協調性が求められる。
キーワード	社会学、現代社会、グローバル化、ジェンダー、多文化共生

講義コード	1051510003
講義名称	外国史 03<秋集>
科目英文名	History of Foreign Countries
代表ナンバリングコード	HIST1020
単位数	4.0
時間割	秋学期: 火曜日 3 時限, 秋学期: 金曜日 2 時限
講義開講時期	秋学期

担当教員

氏名
梅田 百合香

授業形態	講義
------	----

講義・演習概要	本講義では、教職を目指し、中学・高校で歴史教育に従事することを想定している学生を前提に、世界史とりわけ西洋史について、現在の研究水準を踏まえたうえで近世から現代までの通史を解説するとともに、デジタル資料などを用いながら臨場感ある授業を進めていく。
学習（到達）目標	受講者は、教育目標を達成するための西洋史の基礎的学力を身につけることを目標とする。

講義・演習計画

回	内容
第1回	講義ガイダンス
第2回	宗教改革Ⅰールターとドイツ宗教改革
第3回	宗教改革Ⅱースイスの宗教改革とカルヴァン主義の展開
第4回	ヨーロッパ諸国の抗争と主権国家体制の形成
第5回	重商主義と啓蒙専制主義Ⅰーイギリス革命と絶対王政
第6回	第 1 回試験およびまとめ
第7回	重商主義と啓蒙専制主義Ⅱープロイセン、オーストリア、ロシア
第8回	重商主義と啓蒙専制主義Ⅲーヨーロッパ諸国の海外進出
第9回	アメリカ独立革命
第10回	フランス革命とナポレオンⅠー革命の勃発
第11回	フランス革命とナポレオンⅡーナポレオンの帝国
第12回	第 2 回試験およびまとめ
第13回	ウィーン体制の成立Ⅰーウィーン会議
第14回	ウィーン体制の成立Ⅱー 1 8 4 8 年革命
第15回	ヨーロッパの再編と新統一国家の誕生Ⅰーロシア、イギリス、フランス
第16回	ヨーロッパの再編と新統一国家の誕生Ⅱーイタリア、ドイツ、非列強国家
第17回	第 3 回試験およびまとめ
第18回	南北アメリカの発展Ⅰーラテンアメリカ
第19回	南北アメリカの発展Ⅱー南北戦争
第20回	帝国主義と列強の展開Ⅰーイギリス、フランス、ドイツ
第21回	帝国主義と列強の展開Ⅱーロシア、オーストリア、イタリア
第22回	世界分割と列強対立
第23回	第 4 回試験およびまとめ

第24回	第一次世界大戦とロシア革命Ⅰー第一次世界大戦の勃発
第25回	第一次世界大戦とロシア革命Ⅱーロシア革命
第26回	ヴェルサイユ体制下の欧米諸国Ⅰーヴェルサイユ条約とワシントン体制
第27回	ヴェルサイユ体制下の欧米諸国Ⅱー第一次世界大戦の各国への影響
第28回	世界恐慌とファシズム諸国の侵略Ⅰー世界恐慌
第29回	世界恐慌とファシズム諸国の侵略Ⅱーナチス=ドイツの成立
第30回	第5回試験およびまとめ

成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	100%
レポート	
その他	

成績評価の方法（コメント）	5回の確認テストにおいて、学習目標に対応するテーマに関する選択式問題を出題する。 この5回のテストで、授業内容を踏まえた西洋史の基礎的学力が身についているかどうかを評価する。 6回以上欠席した場合（公認欠席含む）、成績評価対象外となるので注意すること。
---------------	--

テキスト

	著者	タイトル	教科書購入区分	ISBN	出版社	備考
1.	木村靖二・岸本美緒・小松久男編	詳説世界史研究	大学オンライン販売	4634030888	山川出版社	

事前および事後学習の指示（事前学習 30 時間 ・事後学習 30 時間）	講義中はノートを取り、授業後テキストと自分のノートを読み返し復習すること。 復習後、自分のノートをもう一度まとめ直し、次回の講義内容に備え予習すること。
--------------------------------------	---

【社会人の方へ】
成績評価はないが、小テストを受けることができ、自分の理解力を確認することができる。授業では、レスポンスシートへの回答が求められる。

講義コード	17A7350002
講義名称	学科特殊講義-宮崎アニメの世界Ⅰ 02<秋集> ※英語による講義
科目英文名	Lecture on Special Topic-Miyazaki Hayao's World of Anime
代表ナンバリングコード	CULT3440
単位数	4.0
時間割	秋学期: 水曜日 3 時限, 秋学期: 水曜日 4 時限
講義開講時期	秋学期

担当教員

氏名
取屋 淳子

授業形態	講義
------	----

講義・演習概要	“Anime” (Japanese Animation) has become popular worldwide in recent years, and Miyazaki Hayao ranks among the most interesting and acclaimed directors because of the originality of his works. This course will look at a number of Miyazaki’s movies, including “My Neighbor Totoro” “Princess Mononoke,” and “Spirited Away,” from various angles. In addition to Miyazaki’s works, other Japanese animated movies will also be taken up. The history of Japanese animation will also be surveyed, and a comparison will be attempted with animated movies outside Japan including those of the Disney company which are the most widely known.
学習（到達）目標	By focusing on a specific theme and work each time, the lectures will undertake a detailed study of Miyazaki Anime. The course will not only examine the contents of the various works, but will also take up such topics as the historical background to the movies, the critical evaluation they received and the reaction of audiences worldwide. Movies examined will include: ○ Miyazaki’s Works: “Nausica of the Valley of the Wind,” “My Neighbor Totoro,” “Princess Mononoke”, “Spirited Away,” etc… ○ Other Anime Productions: “Haku-ja den,” “Akira,” “GHOST IN THE SHELL” etc.

講義・演習計画

回	内 容
第1回	Introduction of the lectures
第2回	Introduction of the lectures
第3回	Starting point of Miyazaki Hayao①
第4回	Starting point of Miyazaki Hayao①
第5回	Starting point of Miyazaki Hayao②
第6回	Starting point of Miyazaki Hayao②
第7回	History of Japanese Anime①
第8回	History of Japanese Anime①
第9回	History of Japanese Anime②
第10回	History of Japanese Anime②
第11回	History of Japanese Anime③
第12回	History of Japanese Anime③
第13回	Miyazaki Hayao's Location Scouting in Europe①
第14回	Miyazaki Hayao's Location Scouting in Europe①
第15回	Miyazaki Hayao's Location Scouting in Europe②
第16回	Miyazaki Hayao's Location Scouting in Europe②
第17回	Japanese Culture in Miyazaki's Anime①
第18回	Japanese Culture in Miyazaki's Anime①
第19回	Japanese Culture in Miyazaki's Anime②

第20回	Japanese Culture in Miyazaki's Anime②
第21回	Japanese Culture in Miyazaki's Anime③
第22回	Japanese Culture in Miyazaki's Anime③
第23回	Japanese Culture in Miyazaki's Anime④
第24回	Japanese Culture in Miyazaki's Anime④
第25回	Japanese Culture in Miyazaki's Anime⑤
第26回	Japanese Culture in Miyazaki's Anime⑤
第27回	Japanese Culture in Miyazaki's Anime⑥
第28回	Japanese Culture in Miyazaki's Anime⑥
第29回	Review
第30回	Review

成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	
レポート	50%
その他	50%

成績評価の方法（コメント）	Reaction paper and Final assignment(in English).
---------------	--

テキスト

	著 者	タイトル	教科書購入区分	ISBN	出版社	備 考
1.						There will be no textbook. Readings will be introduced during the course.

参考文献	Hayao Miyazaki：Starting Point 1979～1996 （2014）
事前および事後学習の指示（事前学習 30 時間 ・事後学習 30 時間）	詳細は講義中に指示するが、キーワードなど、自分なりの理解が深まるよう努力すること。
その他備考（担当教員用）	授業は英語で行われます。コメント表(毎回の課題)、提出レポート、および試験もすべて英語で書いてもらいます。
備考(管理者用)	（旧：共通自由特別講義－宮崎アニメの世界Ⅰ）04～08生読替（L・文学部除く）☆英語による講義

【社会人の方へ】
 基本、英語での講義となりますが、英語を学ぶのではなく、英語で宮崎アニメを考察していく講義となります。
 映像作品(英語字幕)を視聴する時間が多いです。